
2025年12月12日

長野高専後援会

発行責任者：支部長 伊藤 誓敏
編集：編集委員会

長野支部だより

令和7年度 長野支部総会開催



7月19日（土）午後2時より
り木テル信濃路において、62名の
会員の参加を得て令和7年度長野
支部総会が開催されました。
総会後は同会場において懇親
会が開催され、先生方3名を含む4
7名が参加し楽しいひと時を共にしました。



学校情報

早瀬伸樹校長先生



この4月から校長をしています早瀬です。本日は長野高専後援会長野支部総会にお招きいただきありがとうございます。後援会の皆様には日ごろから本校の運営にご支援いただき心から感謝申し上げます。ご支援のお陰で課外活動、国際交流、コンテストへの参加等、学生たちが活発に活動することができ、本校の教育理念である「優れた技術者は優れた人間でなければならない。」を実践するための大きな原動力になっています。

始めに、長野高専を含めた全国の高専全体の話をさせていただきます。今「高専」は、社会から高く評価されています。長野高専も含めて就職は極めて良く、また、大学への編入学についても、大学からは、理論も持っているし実践力もあると高く評価されています。その裏付けとして、例えば、少子化の影響で中学生の数が減ってきてていることから高等学校では再編や定員を減らすという動きがありますが、高専は逆に新しく作ろうという動きが活発になってきています。例えば、2年ほど前に徳島県に「神山まるごと高専」を作られました。2028年には、現在高専がない滋賀県にも県立の高専を作ろうということで実際

に教員も募集しています。また、現在高専がない山梨県にも作ろうという議論が沸き上がっているところです。

世界に目を向けると、日本政府の円借款事業によってタイに高専を2つ作っています。国立高専も支援をしておりまして、現在タイ高専には日本から20名近くの教員が行って、タイ高専の学生を指導するだけでなく、タイ高専の先生に教え方を教えるというところで支援しています。更に、モンゴルにも6校の高専があります。日本の高専に留学していたモンゴルの学生が、モンゴルに帰ってそこで作った高専です。6校という数はあまり多くないと感じるかもしれません、モンゴルの人口は約350万人です。長野県の人口の1.5倍くらいになりますが、そこに6校の高専ができているということです。7月の始めに天皇・皇后両陛下がモンゴルをご訪問されたが、その際にもモンゴルの高専を見学されています。

長野高専に目を向けますと、4年ほど前に改組をし、ひとつの工学科になっております。工学科の中に情報エレクトロニクス系、機械ロボティクス系、都市デザイン系という3つの系があります。5年生だけは従来の5つの学科で、4年生以下は工学科という形で、新しい教育が具体的に始まっています。例えば「長野学」と言いまして、長野の資源を使ってというか、長野に関係することを使って学ぼうという授業があります。また、「エンジニアリングデザイン実践」と言いまして、地域の課題とか企業の課題を具体的にもらって、それを解決するような案を練ってそれを社会に還元していく実際社会で使えるように社会実装に持っていく这样一个授業を具体的に始めております。

この様なことを行いながら、一生懸命地域や社会にPRをしていきたいというところですが、少し心配なことがあります。それは入試の志願倍率が少しずつ下がってきてているということです。勿論ただ上がるればいいというものではありませんが、志願倍率というのは、学校の評価のひとつの側面であると思いますので、何とか高専でも教育とか研究とかその成果を具体的に社会とか地域の皆さんにアピールして、高専のことをもっとよく知ってもらって魅力を感じてもらおうと取り組んでいるところです。これからいろいろPRを進めていきたいと考えてい

るところです。場合によっては、後援会の皆様にも色々とご協力いただくこともあるかと思いますが、その節には、是非ともよろしくお願ひいたします。

長野高専は、長野市という長野県の県庁所在地で、長野県で最も人口の多い都市にある高専です。国立高専は全国で51校ありますけれども、県庁所在地にある高専は、実はそんなに多くありません。長野高専の他では、秋田高専、富山高専、仙台高専、群馬高専、松江高専、高松高専、大分高専、熊本高専の8つだけです。それ以外は、県庁所在地以外の第2、第3の都市にあります。国立大学がだいたい県庁所在地にありますので、それがない所に作ろうということでこのような形になったのではないかと思います。長野県の場合は、信州大学の本部が松本市にありますので、そういうこと也有って長野高専が長野市に作られたのではないかと思います。実は、これが長野高専にとって大きなメリットで、長野市の人口が36万人強いますので、それだけ多くの中学生もいます。もっともっと中学生や地域の方に長野高専のことを知つてもらい、進路先のひとつに考えてもらい、盛り上げていければと考えているところです。

本日は、この後、教務主事、学生主事から学校の現状についていろいろお話をあるかと思います。是非皆様から忌憚のないご意見をいただきまして、それを少しでも学校の運営に反映させていければと思いますので、よろしくお願ひいたします。

渡辺誠一副校長先生（教務主事）



皆さん、こんにちは。長野高専教務主事の渡辺と申します。皆様には日頃から多大なるご支援ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。本日はよろしくお願ひ致します。

学科改組が行われてから、一期生が4年生になりました。学科改組に関することや4月からの学生の様子、試験や進路についてお話をさせていただきたいと思います。

学科改組の1つの特徴として、入学してから電気、機械、情報、土木の各分野を学んでから2年生に進級する時に選択をする形になり、4年目になりました。今年度の1年生の第一回目の選択の調査では、情報エレクトロニクス系が100名と人気が高いようですが、第二回目とやっていく中で、出来るだけ学生の希望を叶えながら調整できればと思っています。

1年生は、入学後のガイダンスという形で、学級担任の先生の発表や講話を聴いていただきたりしました。「ものづくり基礎工学・実験」では、機械ロボティクス系のブロックを使ってロボットを組み立てようというものや、情報エレクトロニクス系のハンダ付けなどを楽しく行っています。ウェルネスアウトドアでは道具を使って火を起こす体験をしました。

4年生の大きなイベントはインターンシップになります。インターンシップを通じて企業がどういう事をやっているか現場の雰囲気を知ること、そして実際に社会人と接していく中でマナーを学びます。最近はインターンシップ先の企業に就職することも増えてきているので、きちんと調べて心して実習先を決めましょうというお話をさせて頂いております。インターンシップの研修会の一環で、5月に企業の方に来ていただき説明を受けるという機会を設けました。4年生のエンジニアリングデザイン実践という科目では、企業の方からテーマを出して頂いたり、校内からテーマを出し、実際にそれをどう実現していくか自分で考えて取り組む活動を一年間通じて行っています。アイディアを出し計画を立て、具体的に物を組み立てる時には、部品の選定や注文をします。その際、学生が説明資料を作り放課後の時間やオンラインのツールを使って企業の方との打ち合わせをし、ディスカッションをします。この実験を通じて、考える力や説明する力などをつけてもらえばと思っております。

4、5年生の分野横断科目の履修では、主専攻以外の科目を必ず3科目取って知識を広げて頂くということを実践しています。また、新学科ではデータサイエンス科目的履修を全学年に導入しました。1～4年生までは必修という形にして、今年の4年後期からはAIに関する内容も含む「データサイエンス基礎」の授業も予定しております。

今年度から4年生以下の平均点の計算方法が変わりました。今まででは例えば3科目あつたら3科目の点数を足して3で割るという単純平均点だったのですが、点数に単位数をかけた

ものを足して、受講した科目の総単位数で割ることになりました。より単位数が多い科目の方が重みがある形になっています。

6月に前期中間達成度試験を行いました。4年生において平均点で80点以上を獲得する学生が4割いました。4年生は特に進学の成績にきいてくるので、その辺りを踏まえての対応の結果であると思います。その反面、1～4年生ともに60点未満の学生が2割を超えていました。このような現実になっていますので、今回の試験で成績が振るわなかつた学生は、今後の定期試験をぜひ頑張っていただきたいと思っています。

前期中間達成度試験の結果を受けて、前期期末達成度試験前に校内学習塾を行いました。1年生のべ34名（英語10名、数学24名）、2年生のべ51名（数学25名、物理26名）が受講対象となりました。過去受講した学生は成績が向上する傾向が出ており、受講した効果を期待しているところです。

コロナ禍では縮小傾向にあった夏季休業中の海外研修が盛んになってきました。全学生に対して幾つかのプログラムを紹介したところ、107名の学生から応募がありました。面談等で選考した結果、カナダ、タイ、香港、シンガポール、ベトナム、ベトナム、カンボジア、インドネシアに計54名派遣予定です。見聞を広めるとともに、コミュニケーション力を向上させる機会となればと願っています。

7月5日（土）に本校でオープンキャンパスを開催しました。今年初めて女子学生の心を掴むため、おにぎり弁当を用意して女子学生と懇談しながらお昼をとつて頂く「女子高専生とのランチタイム」を企画して好評でした。また、今年からオンラインでも学校説明会を実施しています。

進路の決定状況については以下の通りです。就職希望者のうち、6月末の時点で88%の学生が内々定を頂いている状況です。進学希望者のうち、52%の学生が1校以上合格を得ています。信大工学部の推薦選抜における合格率は5割を少し切りました。一方、二年前から推薦選抜が始まった東北大学に今年初めて合格者が出来ました。今年の特徴は、就職に関しては県外が圧倒的

に多いところです。県内就職が2割、県外就職が8割になっています。高専から就職する場合では、学校推薦を受けて応募する場合が多いです。学校推薦の場合、書類選考がパスされ、すぐに面接させて頂けることが多いですが、自由応募で受けた方が職種が広がるケースもあります。自由応募はソフトウェア系や建設系の企業に多い傾向です。内々定が出るまでに2か月近く時間がかかることもあります。学校推薦の場合、4月初旬に応募すると4月下旬には結果が出るというところが多い傾向です。

進学における学校推薦は、1年生から4年生の成績の平均値により算定し、上位の者を学校推薦しています。（ただし、大学によっては推薦条件が違うので、その場合はそれに従う）。夏休みの時期に、多くの大学のオープンキャンパスが行われています。4年生はインターンシップがあり行きづらかったりするので、進学希望の方は是非1～3年生の間に行っていただくのが良いかと思います。今、大学の英語の試験の成績をTOEICのスコアに算定する大学も多いです。本校の専攻科もその方法を採用しており、本校の場合は、TOEIC600点で英語の成績を100点に換算します。TOEICは慣れてくるとスコアが上がってくる傾向ですので、ぜひ受験を確実にして頂ければと思っております。

最後に、保護者の皆様から多くご要望をいただいているさくら連絡網を使った情報発信について、今、詳細を詰めているところです。校内からの連絡を例えば月に1回案内することや、重要な情報は、教務係や学生係から随時連絡できるような形にしていきたいと思っております。他の件につきましても、ご意見・ご要望等ございましたら学校までお知らせください。よろしくお願ひいたします。

奥村紀浩副校長先生（学生主事）



本日はよろしくお願いします。今まで主に1・2年生の担任や物理も担当していました。今は学生主事という立場にもなり、後援会の皆様方には学生の生活や部活、学生会活動を支えて頂いているという事に非常に感謝しております。

学生主事は学生支援委員会を担当し、委員会は学生が明るく健康的かつ快適に過ごすという目的で活動しております。主に3つの重点項目として、問題行動の未然防止、学生生活・学生会への支援、それから保護者の皆様との連携を念頭において活動しています。

<問題行動の未然防止>

先生方には問題行動の未然防止のために普段から学生と話をしてもらうようにしております。SNSの使い方や3年生以上に中央警察署に協力してもらい交通事故防止や来年4月からの青切符の違反について等、様々な集会や講演を行い、注意喚起をしていきたいなと考えております。

<学生生活・学生会への支援>

学生生活や学生の活動を支援もしております。学業だけではなく様々な活動といったものも長野高専が目指す優れた人間になるためには必要な活動だと思いますので、そちらの支援をすることが主になっております。

・学生会：市立長野高校の生徒会と本校の学生会が共有でその共同で行う挨拶運動もあります。自転車運転時にヘルメットの着用の呼びかけを昨年から言っておりましたが、学生会で挨拶運動のところでヘルメットを着用している学生数を数えてもらったところ、本校の学生は7割～8割着用していました。暑い日が続いており、学生会主催のかき氷の振る舞いが食堂で行われました。学生総会や工嶺祭など学生主事の立場となり学生達がこの様に頑張っていることがよく分かりました。

・クラスマッチ：各クラスでクラスTシャツを作成し、保護者の皆様にもご協力を頂いたと思います。あまり本校の学生は運動が得意ではないが、そういった学生も楽しめる種目を取り入れていました。 3年生が一番強く、専攻科の学生となると体が動きにくくなっているようでした。

・ワークショップ：学校をきれいにしようとDIYのワークショップを実施してベンチ作りやプランター花を植えたりしています。

・意見交換会：学校生活への学生の希望を聞く意見交換会も開かれ、授業についての要望等を学校へ伝えました。

・部活動・同好会：4月の段階では部活動は運動部が17、文化系の部活動が13、 同好会が16です。人数は 運動部系が424名、 文化部が160名であり兼部している人数も含まれております。今年の部活動 同好会活動の特徴として最近は運動部系の部活に入っている子が多いかなという気がします。

～県高校総体～

県高校総体へ行った部活動があり、その中から更に陸上競技部 3年男子のハンマー投げで全国高校総体へ出場します。また、全国高校の囲碁選手権へ 2年生が行きます。異色なところでは競技麻雀同好会が今年から朝日新聞社が主催する第1回全国高等学校 麻雀選手権大会へ運営協力として得点の計算システムを作るところで協力し、長野高専生らしいお手伝いの仕方で活躍しています。

～高専大会～

関東信越地区の大会を勝ち残って 剣道部と公式テニス部が全国大会へ行けることとなりました。地区大会の主管となり、開催校枠で全国大会へ行ける部活もありました。

～プロコン～

情報技術研究部の1チームが全国大会に出場します。

今年の全国高専大会は九州地区、高専プロコンは島根県松江市が会場 なので後援会の皆様からの支援を非常に有り難く感じております。

<保護者との連携・奨学金>

奨学金の推薦を本校でも行っております。新入生ガイダンスでも伝えております。本校のHPにも経済的支援というところに、募集中又は過去に募集のあった団体の奨学金が載っておりますので、そちらを見て頂いて応募したいところがありましたら、是非応募の方をよろしくお願ひいたします。

特別講演（合唱部）

今年度の特別講演は高専合唱部の皆さんに演奏していただきました。

高専の校歌（歌えるのは合唱部員だけ、という話も…）から始まり、2014年のNHK連続テレビ小説「マッサン」の主題歌である「麦の唄」、そして2025年度NHK全国学校音楽コンクール高等学校の部の課題曲「惑星ぞぞろ」の3曲を歌っていただきました。

出席者の中には涙をぬぐう姿もあり、心が洗われるような素晴らしい演奏でした。



伊藤誓敏支部長挨拶



日頃より、長野高専後援会の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。また、本日はご多用のところ、また暑さ厳しき中ご出席いただき、心より御礼申し上げます。

先ほどの承認を受けまして、本年度、長野高専後援会長野支部の支部長を務めさせていただくことになりました伊藤誓敏と申します。誠に僭越ではございますが、1年間どうぞよろしくお願い申し上げます。

当長野支部は、長野高専後援会各支部の中でも在籍会員数が全体の3分の1以上を占める、最も規模の大きな支部でございます。

その規模ゆえの課題も多く、日々、活動の在り方について模索を続けているところです。そうした中でも、本日の支部総会、10月開催予定の工嶺祭、そして来年2月予定の学年別懇談会は、当支部における重要な交流の場として位置付けております。

工嶺祭では、保護者やご来場の皆様への湯茶サービスも行っており、昨年・一昨年ともに、2日間で1,000名を超える来場者をお迎えいたしました。

学年別懇談会につきましては、昨年度より近隣の北信地域の支部にもお声がけし、より広い交流の場として実施しております。ぜひ多くの皆様にご参加いただければ幸いです。

長野支部の規約にあります「会員の親睦」を図るべく、今後もこのような活動を積極的に行ってまいります。こうした行事の運営は、執行部だけでは成し得ません。引き続き、会員の皆様のお力添えをお願い申し上げます。

また、昨今の物価上昇などの状況を踏まえ、長野支部ではさまざまな工夫を重ねてまいりました。具体的には、「長野支部だより」を長野高専のホームページに掲載する形へ切り替えるとともに、行事のご案内も、従来のはがきによる方法から、QRコードを活用したご案内へと移行することで、予算の削減に努めています。

さて、本日の総会は、まず昨年度の活動報告および決算報告、続いて本年度の活動計画と予算案についてご審議いただきます。その後、早瀬校長先生をはじめとする先生方より、学校の近況や情報をご紹介いただき、特別講演として、長野高専合唱部による発表も予定しております。

本日の総会が滞りなく進行し、皆様にとって有意義な時間となりますことを願いまして、簡単ではございますが、支部長としてのご挨拶とさせていただきます。

どうぞよろしくお願いいたします。

令和7年度役員（左から）



【会計補】大小田 一仁

【庶務補】島田 恭孝

【会計】島津 明美

【支部長】伊藤 誠敏

【副支部長】小林 雅樹

【庶務】金澤 彰

★一年間、よろしくお願いします★

編集後記

会報をWeb化して2年目、編集方法を試行錯誤しつつ、遅くなりましたが今号も何とか発行にこぎつけました。次号は学年別懇談会特集の予定です。お楽しみに。

編集委員

上條 久美子　瀧澤 ゆかり　古城 ちさと　荒川 千愛　原 正悟